

SNPタイピングデータを用いた ゲノム育種

フィルジェン株式会社 バイオサイエンス部 (biosupport@filgen.jp)

研究の背景



- 人口の増大に伴い、食糧の増産や品質向上のために、作物と家畜のゲノム情報 を用いて、効率的な育種改良を行うことが急務となっている。
- そのためには、これら作物や家畜の遺伝的な多様性を理解し、収量や味などの食料としての特徴と関連する遺伝子を調べる必要がある。
- Golden Helix社SNP & Variation Suite (SVS)ソフトウェアでは、SNPジェノタイピングデータによるゲノム情報を用いた、育種に役立つ解析ツールが搭載されている。



ゲノム育種に用いる手法



1. ゲノムワイド関連解析(GWAS)

表現型と関連するSNPの同定

- ゲノム全域を網羅したSNPマイクロアレイや、次世代シークエンサー解析で取得したSNPデータを用いて、 多数のサンプルデータを比較し、表現型と関連するSNPの同定を行う。
- ケース/コントロールのようなバイナリデータの他に、量的形質(Quantitative trait)も表現型データとして扱うことができる。
- 近交系サンプルの血縁関係による偏りを除外するために、線形混合モデルが使用される。

2. Genomic Prediction

サンプルごとの形質やゲノム育種価の予測

- SNPジェノタイプデータを用いた、個体の育種価の予測。
- 表現型を予測するモデルを作成し、表現型が未知のサンプルデータをモデルに当てはめ、 そのサンプルの表現型を推測することができる。
- 予測した育種価データに基づく個体の選抜に応用が可能。
- GBLUP法、Bayes CやBayes C-pi法などを使用する。



1. ゲノムワイド関連解析(GWAS)

解析ワークフロー



使用するジェノタイプデータ:

- 生物種:ウシ(Bos taurus)
- サンプル数: 472例
- 解析プラットフォーム:Illumina Bovine BeadChip
- SNPマーカー数: 52,890個

データのインポート

ジェノタイプデータファイル、表現型データファイルのインポート



クオリティコントロール

各種クオリティデータに基づくフィルタリングと、サンプル間相関データの作成



関連解析の実行

• 線形混合モデルを用いた、ジェノタイプ関連解析の実行

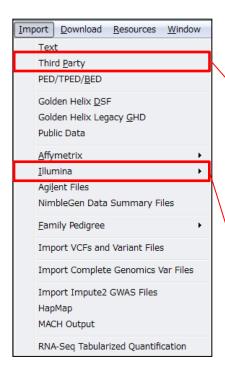


ビジュアライゼーション

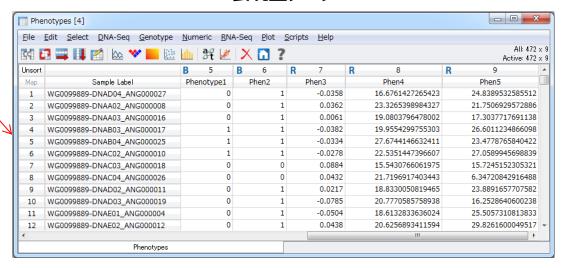
• マンハッタンプロットの表示

データインポート

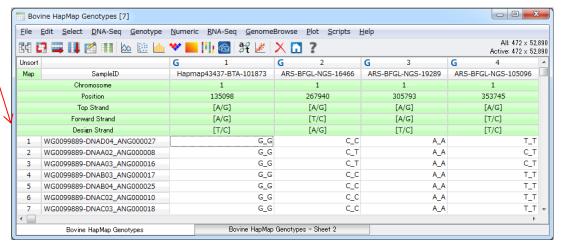




表現型データ

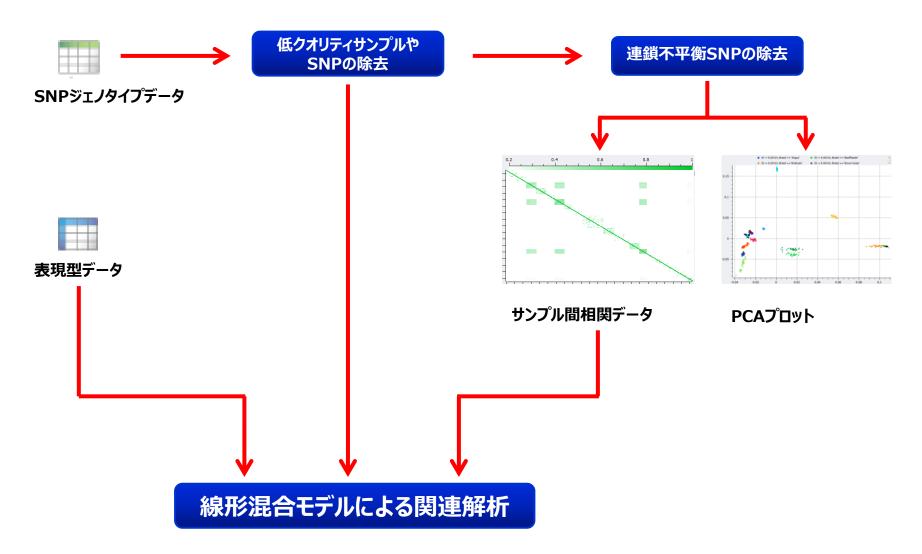


SNPジェノタイプデータ



クオリティコントロール



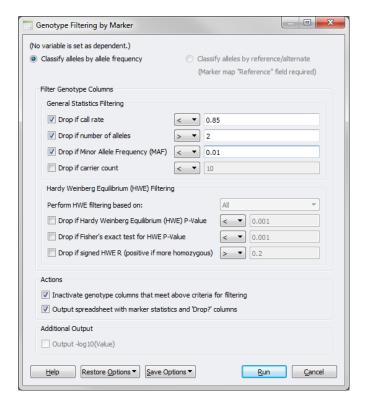


使用するツール



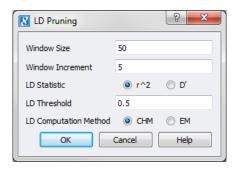
低クオリティ、低頻度SNPなどの除去

- ·Call Rate 検出されたSNPの割合
- ・Number of allele 検出されたアレル数
- ・Alternate allele frequency 変異アレルの頻度



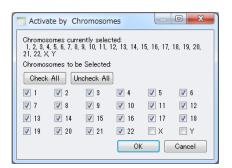
連鎖不平衡SNPの除去

·LD Pruning



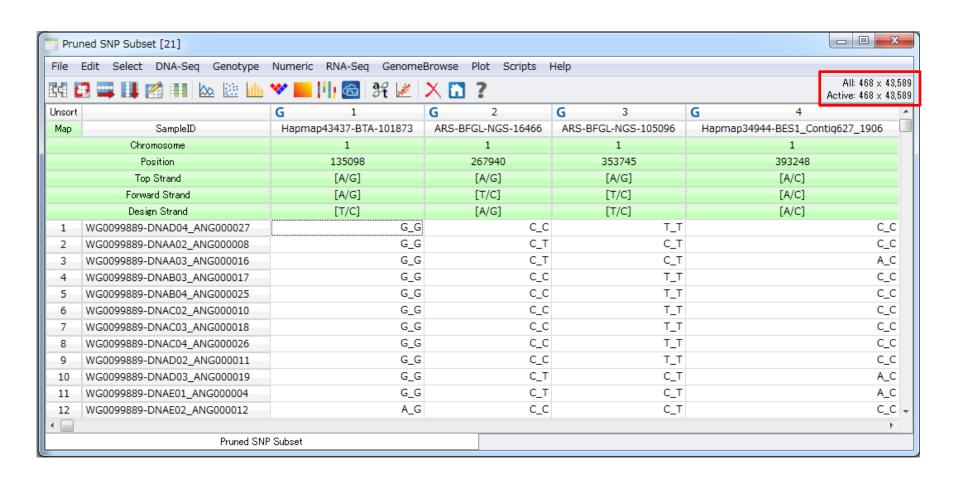
常染色体以外のSNPの除去

Activate by Chromosomes



実行結果

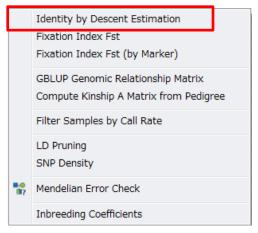


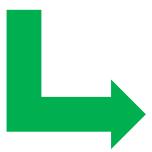


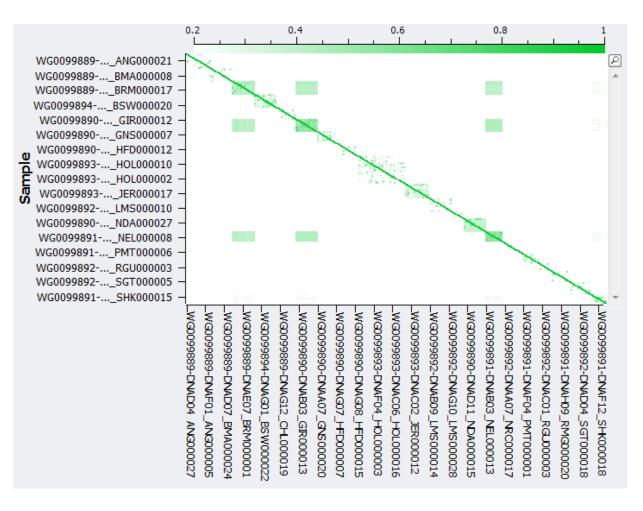
● 各種フィルタリングの実施によって、サンプル数やSNP数が変化する。

サンプル間相関データの作成





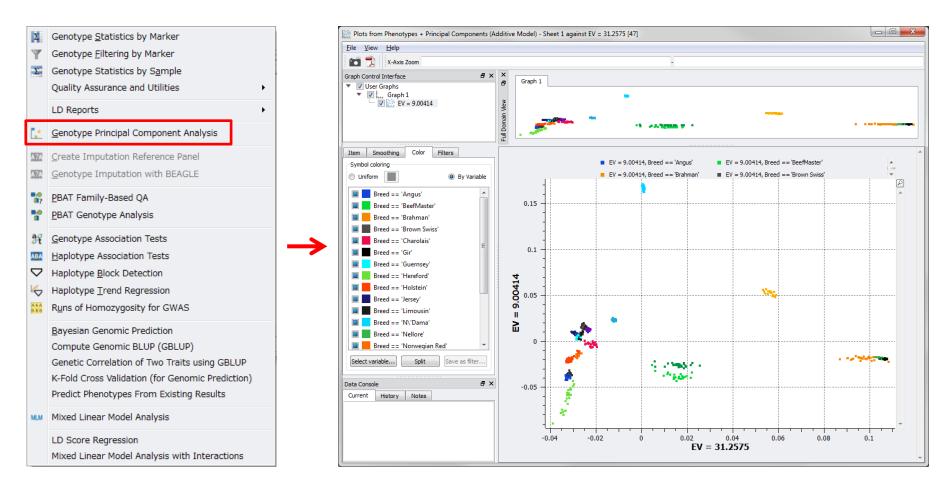




- サンプル間相関データの計算には、Identical by State (IBS), Identical by Descent (IBD), GBLUP Genomic Relationship Matrixなど、様々な手法がある。
- ここで計算したサンプル間相関データ、および表現型データとSNPジェノタイプデータを使用して、 関連解析を実行する。

主成分分析(PCA)



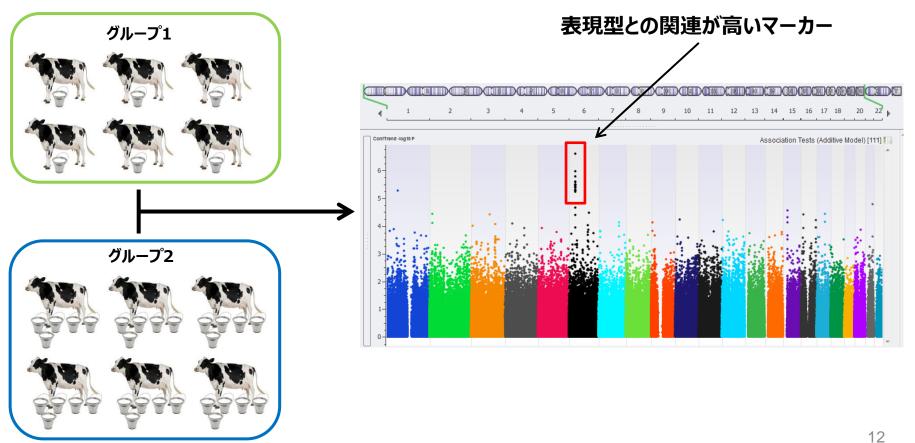


● 主成分分析 (PCA) により、集団の構造化を調べることも可能。

関連解析とは



- 関連解析では、サンプルの表現型と関連しているSNPマーカーを見つけることができ る。
- 関連マーカーが分かれば、表現型を規定する遺伝子などが分かり、品種改良などに 活用できる。



関連解析の種類



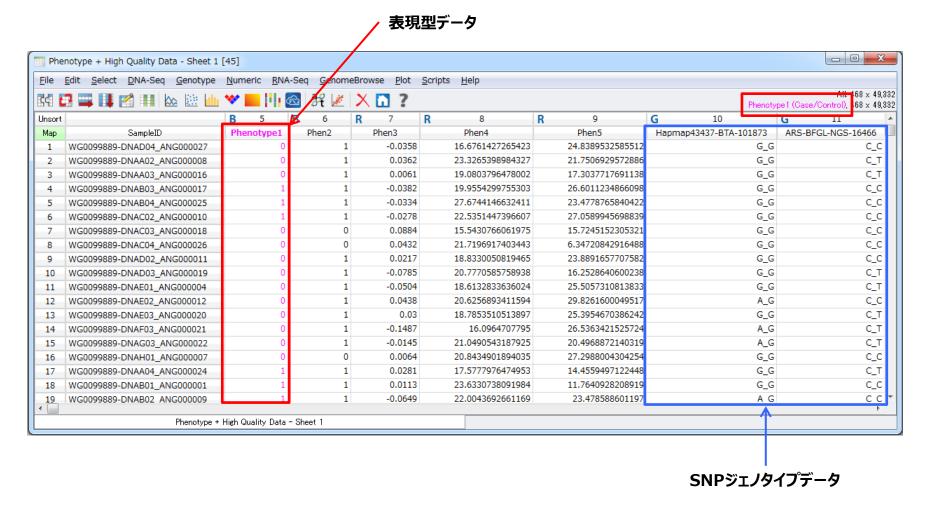
線形混合モデル解析

おもにサンプルの血縁関係による偏りを除外し、関連解析を行う場合に用いられる手法。 近交系サンプルなどの解析に用いられる。

- Mixed Model GWAS using a single locus (EMMAX)
 - ジェノタイプデータによるサンプル間の相関データを用いて、血縁関係の偏りを補正する。
 - 1か所のSNPごとに表現型との関連を計算する。
- Multi-locus mixed model GWAS (MLMM)
 - ジェノタイプデータによるサンプル間の相関データを用いて、血縁関係の偏りを補正する。
 - 複数か所のSNPをまとめて、表現型との関連を計算する。

サンプルデータ

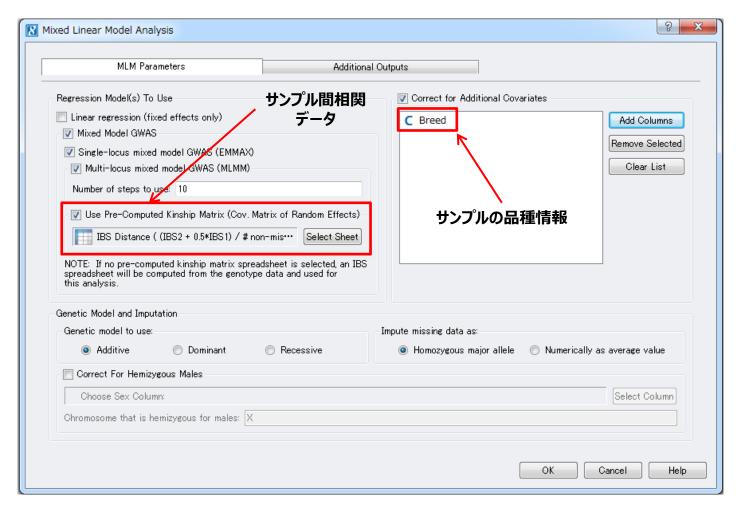




- 解析のキーとなる、表現型データを指定する。
- 表現型データは、2値のケース/コントロールデータの他に、量的形質(Quantitative trait) も使用できる。

パラメータオプション

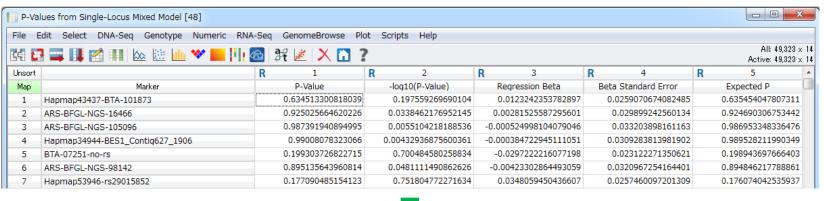




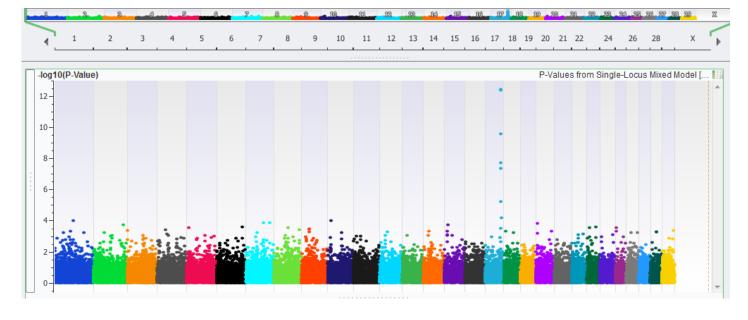
- あらかじめ計算しておいた、サンプル間相関データを指定する。
- 表現型データに、各サンプルの品種情報などが含まれている場合は、その情報を用いて、品種による バイアスを補正することができる。

出力データとビジュアライゼーション





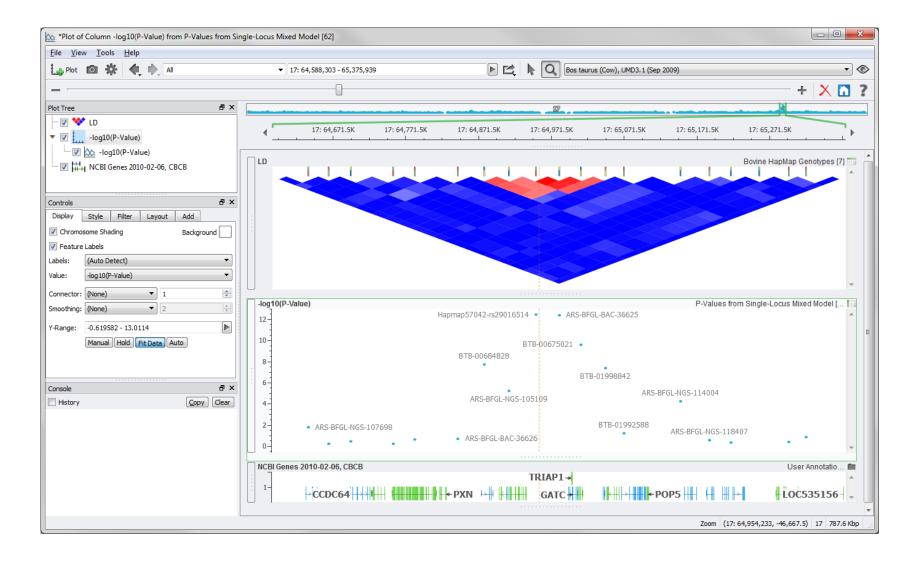




● 計算結果のSNPごとのP-valueをゲノムブラウザーにプロットし、マンハッタンプロットを表示する。

連鎖不平衡(LD)プロット





● 興味のあるゲノム上の領域を指定し、連鎖不平衡(LD)プロットを表示することが可能。



2. Genomic Prediction

Genomic Predictionとは



・ ゲノム育種価(gEBV)の計算

- ジェノタイプデータを使用し、個体の遺伝能力(育種価)の推定を行う。
- 後代検定による血統情報を必要としないため、従来法に比べて、コスト削減と スピードアップが図れる。

・ 表現型の予測

- 既存モデルにジェノタイプデータを当てはめることで、表現型未知個体の表現型データの予測を行う。
- ジェノタイプデータさえあれば予測が可能なため、表現型データを得るのに時間が かかる場合などにおいて、早期の個体の選抜などに有効。



OR

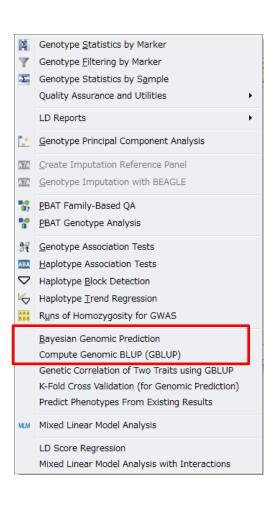


?

計算手法



- Genomic Predictionでは、サンプルごとの変量効果(ゲノム育種価)とSNPごとのアレル代替効果を計算する。
- ジェノタイプデータによるサンプル間の相関データを用いて、血縁関係の偏りを補正する。



GBLUP

- 全SNPが表現型に影響を及ぼしていると仮定する。
- 遺伝子と環境因子の相互作用の補正が可能。

Bayes C

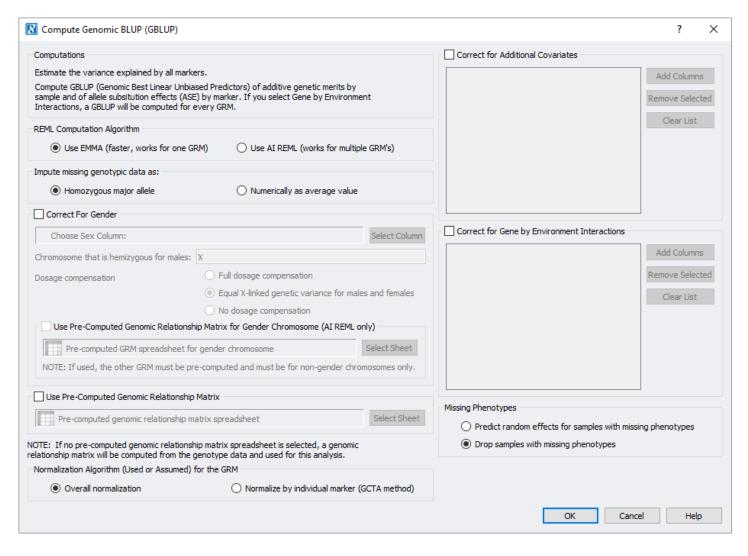
個々のSNPの表現型に及ぼす効果が、確率πで0に なる。 (πの値は固定)

Bayes C-pi

• 個々のSNPの表現型に及ぼす効果が、確率πで0になる。(πの値は変動する)

パラメータオプション

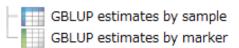


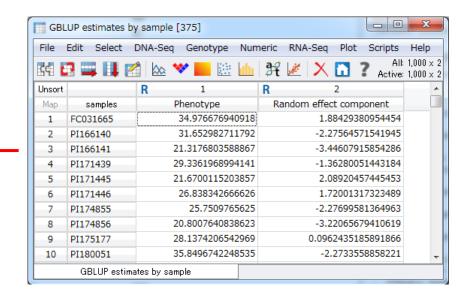


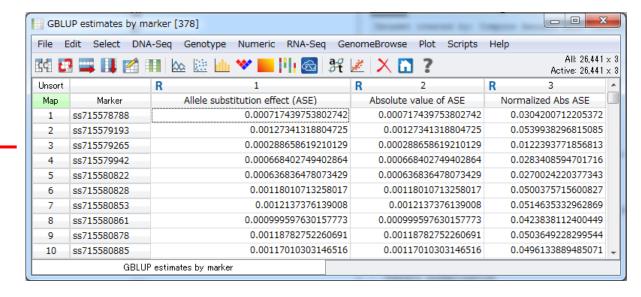
- 必要に応じて、あらかじめ計算しておいたサンプル間相関データを指定。
- GBLUPでは、環境因子データをによる補正も可能。

出力データ





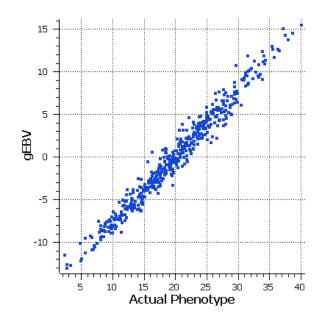




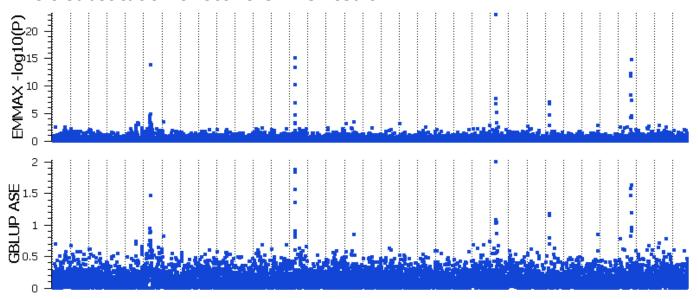
結果データの比較



Actual Phenotype vs Random effect component (gEBV)

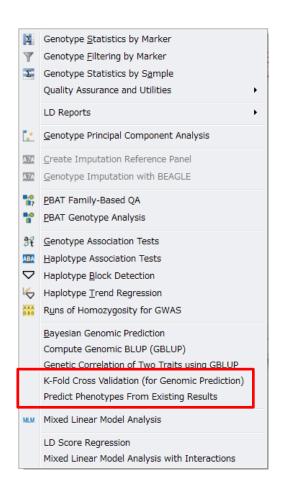






表現型予測モデルの作成と適用





K-Fold Cross Validation

- 交差検証法(Cross Validation)を用いて、各手法(GBLUP, Bayes C, Bayes C-pi)のパフォーマンスの評価を行う。
- 表現型予測に使用するモデルの計算を行う。

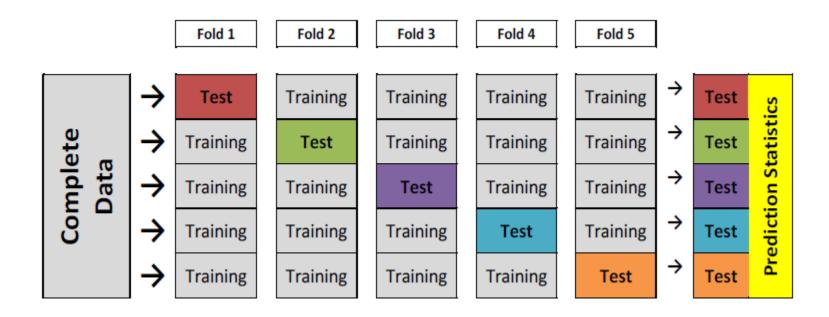
Predict Phenotypes From Existing Results

• K-Fold Cross Validationで計算したモデルを使用し、表現型未知サンプルのジェノタイプデータから表現型の予測を行う。

K-Fold Cross Validation

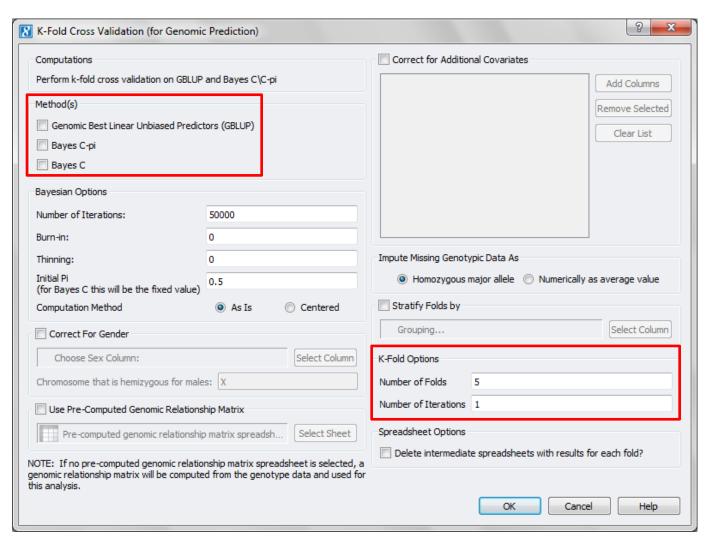


- データセットをK個に分割し、そのうち1個をテストセット、残りのK-1個をトレーニングセット とし、K回の検証を行う。
- 計算に使用するサンプルデータは、表現型データとジェノタイプデータの両方が必要。
- 検証結果として、実際の表現型データと、ジェノタイプデータから予測された表現型データの相関係数などをまとめたレポートが出力される。
- 表現型予測用のモデルデータも同時に出力される。



K-Fold Cross Validation

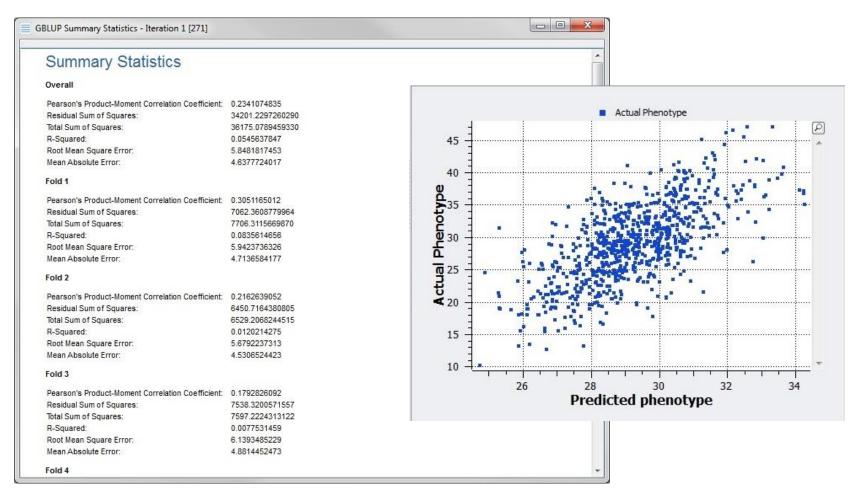




● 評価を行う手法の選択や、データセットの分割数、繰り返し数などを指定する。

K-Fold Cross Validation

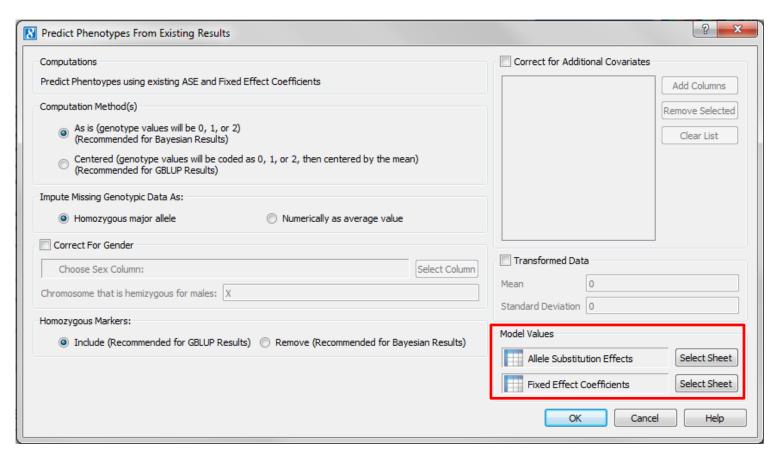




● SNPごとのアリル代替効果とサンプルごとの変量効果、固定効果に加え、検証結果をまとめたレポートが出力される。

Predict Phenotypes From Existing Results Filgen

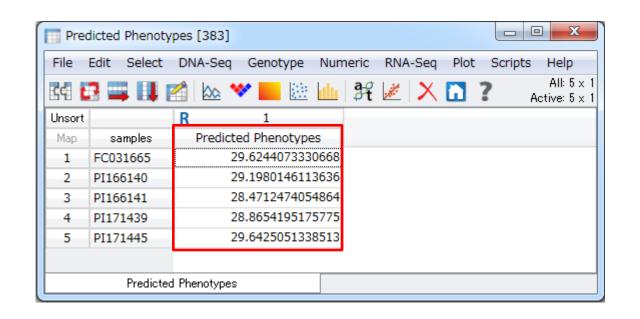




- 計算に使用するサンプルデータは、ジェノタイプデータのみを必要とする。
- K-Fold Cross Validationから出力された、アリル代替効果と固定効果のデータを指定する。

Predict Phenotypes From Existing Results Filgen ?





● 各サンプルごとに予測された表現型データが出力される。



お問い合わせ先:フィルジェン株式会社

TEL: $052-624-4388 (9:00\sim17:00)$

FAX: 052-624-4389

E-mail: biosupport@filgen.jp